

2019年2月

300年の歴史を持つ、一子相伝の伝統と技。

宮中で愛でられた「入神の技」による御所人形を一堂に！

有職御人形司

# 十二世 伊東久重の世界

未来への継承—三百年の入神の技—



「富士の女神」(高さ50cm)2018年



伊東家の守り神「草刈童子」(高さ48cm)  
享保年間(1716~1736年)初代枡屋庄五郎作

- 会場: 日本橋高島屋 S.C.本館 8階ホール
- 入場時間: 午前10時30分~午後7時(午後7時30分閉場)  
※最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)。
- 入場料(税込): 一般800円、大学・高校生600円、  
中学生以下無料
- ・主催: 朝日新聞社
- ・協力: 公益社団法人 京都染織文化協会、  
有職御人形司十二世伊東久重美術館

三百年の歴史を有する、人形司伊東家に伝わる伝統と技。1767(明和4)年に後桜町天皇より賜った「有職御人形司(ゆうそくおんにんぎょうし)伊東久重」の名を代々継承。宮中で愛でられた「入神の技」は、一子相伝、現在も大切に受け継がれ、その独



「月読尊」(高さ54cm)2007年



「桜の絵飾篋」(高さ11cm)2007年

創性・芸術性に新たな境地を加えた作品は、見る人の心を捉えて放しません。

本展では、伊東家の由来から、御所人形、胡粉高盛金彩絵など100余点をご紹介します。愛らしく、凛と格式高い雅な世界をお楽しみください。

#### 【御所人形】

江戸時代中期から、宮中の慶事や祝事の際に飾られてきた由緒ある人形。伊東家では初代庄五郎の頃から、桐の木を用いた木彫法で制作。最大の特徴は三頭身と白い肌であること。胡粉を50回ほど塗り重ねて磨くことで、透き通るような光沢が生まれます。

#### 【胡粉高盛金彩絵】

古くから宮中で、有職調度として用いられてきた筥や折敷、台などの優美な伝統を基盤に、当代久重が御所人形の精細な技術を融合させ、こぼれるように豊かな紋様が描き出される「胡粉高盛金彩絵」という新しい世界を完成させました。

#### ■ギャラリートーク

・日時:2月16日(土)・17日(日)

各日午前11時～、午後2時～

・場所:「有職御人形司 十二世 伊東久重」会場内

#### ■有職御人形司 十二世 伊東久重 略歴

1944年、有職御人形司 伊東家の長男として生まれ、同志社大学在学中より、本格的に人形制作の道に入ります。そして、1978年、有職御人形司 十二世 伊東久重を継承。1985年、京都高島屋で個展を開き、以降、佐川美術館など全国各地で展覧会を開催。2018年、スペイン・マドリードでも展覧会を開催。

【お問い合わせ】日本橋高島屋 S.C.本館 TEL (03)3211-4111(代表)